

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《人社系》

●大阪大学経済学研究科経営学系専攻

「イノベーションリーダー養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本プログラムでは、東大阪地域における中小企業へのインターンシップを充実・発展させたかった。しかしながら、ニッチ分野で活躍する多くの中小企業の事業領域に対して興味を覚える学生が意外と少なく、また、技術系学生（工学修士取得者）は、1年間でMBAを取得する必要があることから時間的な余裕も少なかつたため、期待していたような成果が上げられなかった。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

具体的な要因としては、中小企業の積極的な紹介と学生ニーズの徹底した把握（修学スケジュールも含め）が上げられるが、こうした副次的な事務作業をこなすための組織が、予算的にも人員的にも不十分であった、と言わざるを得ない。しかしながら、予算があったからと言って特任教員という不安定な身分での雇用を行えたかについては、疑問が残るところである。また、イノベーションリーダー人材養成という主たるミッションの達成からすれば、それほど悪影響を及ぼしているとも思い難い。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

中小企業へのインターンシップの実施が難しい状況で、代替的に実施したことは、社長講演会を毎年実施したことであった。異なる業種の異なるビジネスモデルをもとに、その個性と多様性を講演を通じて知ることによって、ビジネス現場におけるリアリティは学生たちの間で高まったと思われる。